



TOEIC® Programで未来の可能性を広げる

NEWSLETTER

ニュースレター

インタビュー

未経験から飛び込んだ職人の世界で、
英語力は「飛び道具」になったと思います。
すし職人 木目田隆晴さん

未来を
変えたい
人に。

〔巻頭〕 My Career Story 木目田隆晴さん

〔特集〕 英語研究者に聞く! 瀧野みゆきさん

「完璧」ではなく「伝わる」を目指す! 世界の共通語としての英語 (ELF) とは?

▶ HOT WORD “reskill”

Contents

My Career Story

～明るい未来の描き方～



英語が活きる
場所を求めて
飛び込んだのは
すし職人の世界でした。

すし職人
木目田 隆晴さん

大学在学中に1年間のカナダ留学を経験し、卒業後、すしの名店「銀座久兵衛」にて修業をスタート。7年目には、異例のスピードでカウンターを任せられる。退職後、沖縄の高級リゾートホテルで経験を積み、2024年、都内に「神田錦町 鮎 たか晴」を開店。

大学卒業後、料理未経験からすし職人の道へ進んだ木目田隆晴さん。
英語がときにチャンスをつくり、キャリアの“飛び道具”にもなったと振り返ります。

英語の役割に気づいたとき 学ぶ意欲が高まった

小さいときから、知らない土地に出かけることが好きでした。中学時代、一人旅で岩手県に行ったのですが、そこで日系3世の若い男性に偶然出会いました。彼は日本語が話せず、僕は英語が最大の苦手。でもなぜか意気投合して一緒に観光名所をめぐりました。辞書を指し合ったり、ようやくひねり出した英語で会話するのが楽しくて、「英語って、自分の意思を伝えて、相手を理解する

ためのコミュニケーションツールなんだ」と気づきました。そこが英語の出発点だったと思います。

大学時代、自分でお金をためて1年間カナダに留学しました。出発前のTOEIC L&Rは400点に届かなかった。でも絶対英語ができるようになってやる!と意気込みだけは強くて、現地では、なるべくカナダ人や他国からの留学生と話すようにして、そのときにしかできない経験を大切にしました。ホームステイ先を出て自分で家を探したり、インターンシップで選挙事務所を手伝ったり。選挙事務所では有権者に片っ端から電話をかけて候補者への支持を訴える

んですけど、電話は相手の顔が見えないから苦労しましたね。

語学学校で学ぶのは、“守られた英語”。丁寧にゆっくり教えてくれます。それも重要ですが、生活で使われる言葉のスピードや言い回しは、それとは全然違うことを留学先では実感しました。

日本語を教えるボランティアも経験して、生徒さんからは日本に関することをたくさん聞かれました。「日本人は毎日すしを食べるんだろ?」と家庭で誰もが、すしを握っているイメージなんです。そのときは、自分がすし職人になるとは夢にも思っていませんでした。

英語力×専門性でたどり着いた すし職人の世界

帰国後、TOEIC L&Rの講座を受けたこともあり、最終的には900点に達しました。磨いた英語力を活かすために外資系企業に就職しようかと考えていたのですが、ちょうどリーマンショックの時期で、大企業だから安心だといった考えが崩れてしまいました。英語が得意な人はほかにもたくさんいるので、そこで勝負するのは得策ではありません。できれば自分だけの強みを持ちたい、英語に加えて何か手に職を……と考えていた頃、「銀座久兵衛」からスカウトメールが届いたんです。銀座久兵衛は、将来を見据えて大学の新卒採用をスタートしたばかりで、僕の経歴に目が留まったそうです。料理もまともにしたことはないし、右も左もわからないけれど、「自分が考えていた働き方だ、よし行ってみるか」と飛び込みました。

配属は銀座本店でした。最初のうちは毎日辞めたいと思うほど大変でしたね。でも、造園職人の父からも「職人の仕事は10年辛抱しろ」と言われていたし、大学の同級生と会って話を聞いても、楽な仕事なんてない。プロとしてお金をいただく厳しさはどこも一緒だと思い、周囲からの応援を励みに修業を続けました。

そんな時期にも、英語には助けられました。外国人のお客様がいらっしゃると「木目ちゃん! 来てよ」と通訳を頼まれるんです。アレルギーの有無をうかがったり、食材の説明をしたりと、特別難しい会話ではありませんでしたが、板前さんは英語が苦手な方が多かったので、英語力は先輩方に目をかけてもらう“飛び道具”になりました。海外出店を視野に入れて早々にカウンターに立たせてくれたこ

と、オバマ元大統領・安倍元首相が会食したときには仕込みと接客を任せてくれたこと。本来なら少し経験が足りなかったかもしれませんが、あと数センチに手が届いたのは英語力のおかげです。この場所だったから僕の“飛び道具”は最高に活きたと思います。

英語の先にある「何を伝えるか」を意識して お客様と向き合っていきたい

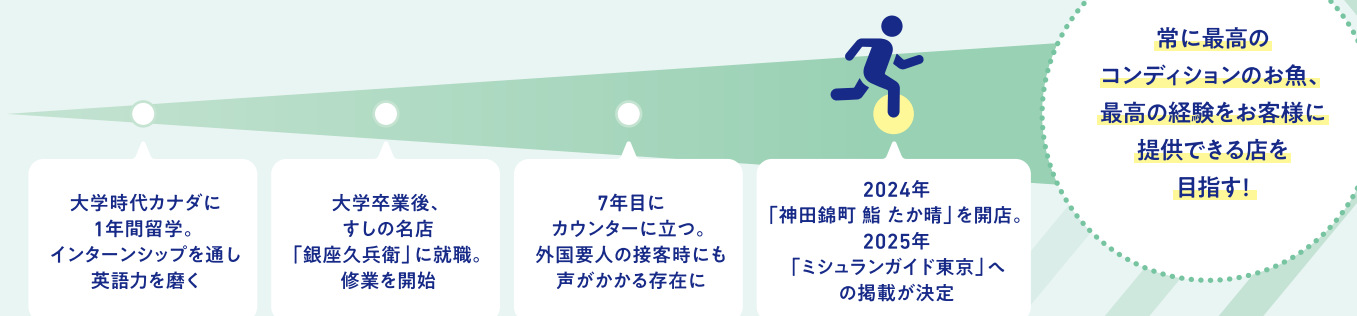
昨年自分の店「神田錦町 鮎 たか晴」を開店しました。お客様に心を尽くし、自分の名にある「晴」という字のごとく、晴れやかな気持ちでお過ごしいただきたい。店名にはそんな願いを込めました。

すしは、職人の技や会話を含め、一期一会のライブ感が醍醐味です。僕は途中で「ご飯の量はちょうどいいですか」とうかがうようにしていますが、それは「お客様のコンディションに合わせますよ。なんでも教えてください」というメッセージであり、会話の糸口です。飲み物は足りているか、僕と話したいのか、お連れの方とじっくり話がしたいのか、召し上がるスピードはどうか。言葉にせず察することもコミュニケーションです。

英語力は僕にとって頼もしい相棒ですが、語学力そのものより、“何を伝えるか”のほうが大切だと思っています。つたなくても、真剣に話す言葉に人は耳を傾けるし、心を動かされます。職人が包丁を研ぐように英語力も鍛錬しつつ、“何を伝えるか”を大切に、世界のお客様と向き合っていきたいですね。



木目田隆晴さんのキャリア「これまで」と「これから」



「完璧」ではなく「伝わる」を目指す！

世界の共通語としての英語(ELF)とは？

市場のグローバル化が進む昨今、英語でコミュニケーションを取れることは、ビジネスの場で大きな武器になります。一方で英語に苦手意識を持つ人は、ストレスを感じることが増えているかもしれません。そんななか、「完璧な英語を目指す必要はない」という考え方が浸透し始めています。ヨーロッパ生まれの新しい英語の考え方、ELF(共通語としての英語)を提唱する社会言語学者の瀧野みゆきさんに、ELFの考え方に基づいて、ビジネスの場でノンネイティブが目指すべき「使える英語」の具体的内容と、そのための英語学習のポイントについてうかがいました。

英語が苦手だった私がたどり着いた「ELF」という考え方

実は私自身、学校で習う英語があまり好きではありませんでした。暗記が多く、面白く感じられなかったからです。海外には興味があつたものの、目の前の勉強が将来とどうつながるのかわかりませんでした。

英語が得意だとは思えないまま社会人になり、中国・北京にあるアメリカ系企業で働くことになりました。社員のほとんどが英語ネイティブではなく、トップはドイツ人、上司は香港人、同僚はシンガポール人という環境で、最初は英語が使えず苦労しましたが、半年ほど試行錯誤をしているうちに、なんとか英語で仕事を進められるようになっていきました。

その後、アメリカに留学し、イギリスにも長く住むなかで、自分にとっての英語の役割が、ネイティブの英語とは根本的に違うことを強く実感しました。こうした経験をもとに、「ノンネイティブにとって最適の英語とは何か」を研究しようとイギリスの大学の博士課程への進学を準備している頃に出会ったのが「ELF(エルフ)」という社会言語学の考え方です。

ELFとは、“English as a Lingua Franca(共通語としての英語)”の略語で、異なる言語背景を持つ人々が意思疎通を図るために使う英語を指します。英語は歴史の流れのなかで、世界で最も力を持ったイギリスとアメリカの言語だったので、世界に広がり、様々な母語を持つ人たちに使われるようになりました。でも、小さいときから生活のほとんどを英語だけで行うネイティブと、普段は別の言語を使っているノンネイティブが、同じように英語を使うはずがありません。ノンネイティブはたいてい、特定の目的があるときだけ英語を使うのであり、英語に対する「経験値」がネイティブとはまったく違います。こうした世界中の

社会言語学者(博士)

瀧野 みゆきさん

英国サウサンプトン大学にて応用言語学博士号を取得。外資企業で英語を使う業務に従事したのち、英国に16年滞在。現在、東京大学教養学部、慶應義塾大学ビジネス・スクールなどで社会や仕事で「使うための英語」を教える。

様々な英語力を持つ人たちが実際に英語でコミュニケーションをしている現場を研究してきた考え方がELFです。

ELFには5つの特徴があります。①明確な目的があることが多い ②多様な英語が使われる ③文化や国の違いが反映される ④状況によって変化する ⑤人々の英語環境が平等ではない、という点です。これまでの英語の基準はイギリスとアメリカにあり、正しさや流暢さが重視されてきました。しかし多様な背景や言語力を持つ人々と使う英語は、「誰にでもわかりやすく」「誤解を生まず」「信頼関係を築ける」ことのほうが重要です。それが、ELFが目指す英語のあり方です。

正しさより“伝わる”を大切に。

英語との距離が縮まるELF

英語が世界の共通語として使われるとき、多様な人々が、多様な英語を使って、様々な目的のコミュニケーションを世界で行っています。英語の多様さを認めるELFは、多くの日本人の背中を押してくれる考え方です。ELFは、ノンネイティブの英語も「一人前の英語」だし、「できないことがあってもあたり前」と考えます。そのため、「正確な文法でなければならない」「ネイティブのように話さなければならない」といった呪縛から私たちを解放してくれます。英語を伝えるためのツールとするなら、完璧さよりもまず伝わるのが大切なのです。

ELFを効果的に身につけるには、5つの“作戦”があります。①自分の目的を具体的に考える ②必要な順に学ぶ ③実際に使いながら学ぶ ④母語(日本語)の力も活かす ⑤相手の立場を考える、というものです。限られた学習時間で英語を使えるようになるには、目的に合わせて優先順位をつけて習得するアプローチが実践的で効果的だからです。

もちろん、ネイティブの英語を目指したり、英語の専門家になりたい人もいたり、ELFとは違う選択肢もあります。ただ、仕事や生活と両立しながら英語を使いたいビジネスパーソンは、自分が英語をどう使いたいかを見極め、自分に合った方法を選ぶのが現実的です。

ビジネス英語の“壁”を

越えるための5つの段階

日本で育ち、英語を学んできた人がビジネスの場で英語を使い始めると、多くの人が「思い通りにいかない」「最初の壁は高い」と感じます。この最初にぶつかる壁を乗り越えるには、瞬時に理解する力が求められるリスニングが要で、ある程度の時間をかけて英語の音に慣れ、要点を聴き取る訓練が必要です。それに並行して重要なのが、「英語として聴き取りやすい発音」と「自分の仕事に必要な専門用語」の習得です。試行錯誤をしながら、これらの英語をある程度身につける頃には、ゲームの“パワー0”の状態から、ひとり立ちできるレベルまでステップアップしています。

ビジネスで英語を使うスキルは、大きく5つに分けられます。まずは「ネットワーキング」。初対面の相手と自己紹介をした

り、雑談をしたりして、人間関係を作るスキルです。どちらも、日本語なら自然にできても、英語では戸惑う人が多いので、自信を持って話せるように練習し、雑談の話題もいくつか考えておくと、スムーズに会話が進みます。

2つ目は「自分の考えを伝える力」です。まずは、自分の会社紹介や担当しているプロジェクトや商品を、わかりやすく、説得力をもって話せるように練習します。英語でこれらについて話すために、短いプレゼンテーションに見立て要点を整理して、順序立てて構成を考え、練習しておき、実際の会話では臨機応変に話す効果的です。

3つ目は「ミーティング」です。ほかの参加者の意見を聴きながら、自分の意見を発言するには、議題に沿った語彙や表現を確認しておくなどの事前準備が欠かせません。また、相手が早口で話しても、そのペースに巻き込まれないように注意します。会議中の不明点は自分から確認し、後から議事録で再確認するなど、聴き違いを避け、互いの理解を深める努力も大切です。

4つ目は「ネゴシエーション(交渉)」です。利害の調整を伴うやり取りで、相手の意図を理解しながら、自分の意見を適切に伝える、やや高度なスキルです。英語交渉術には、多くのノウハウがあるので、必要に合わせて研究してみてください。

5つ目は「わかりやすく書く力」です。英語メールやレポートなどを効果的に書くには、日本語と違う、シンプルで要点をはっきり書く英語のビジネス文書のルールの理解が重要です。特に英語のビジネスメールは、日本語とは異なり、まず冒頭に要件を伝えるのが一般的です。慣れないうちは違和感がありますが、「英語のメールの型」として、用件、背景説明、詳細説明の順に要点を絞って書く練習をすると、伝わりやすいメールを書けるようになります。

ビジネスで英語を必要とする組織がビジネス英語の壁を越えるために取り組む際のアプローチは様々です。まず、現時点でまだ英語を使う機会が少ない企業では、「英語が社内で身近にある環境」をつくるのが出発点になります。たとえば職場で英語を使う機会を設けたり、留学生のインターンなど、実際に英語を話す人材を迎えたりする事例があります。英語を使う姿が身近にあると、英語を“他人事”ではなく“自分事”として意識できるようになります。

さらに英語によって昇進や仕事の選択肢が広がるなど、キャリアに確実にプラスになるような評価制度を整え、周知するのも重要です。英語が将来の可能性を切り拓く力になると社員が実感できれば、自ずと学ぶ意欲も高まっていきます。

相手との違いを知って

英語が伝わる工夫をしよう

言語学では、世界の国々の英語との関わり方を大きく3種類に分けています。1つ目は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダのように英語が日常的に使われる国。2つ目は、インドやシンガポールのようにその国の言葉と英語が併用されている国。そして3つ目が、日本やドイツ、フランスのように国内では英語があまり使われていない国です。

これからは、
英語は完璧でなくてはならない
という意識から離れ、
自分にとって必要な英語を
目指していく感覚が重要になってきます。



こうした英語との関わり方の違いによって、英語力を養う経験が大きく違うのはもちろん、地域ごとに英語の発音やアクセントにも差があり、文化によってコミュニケーションの取り方も異なります。慣れない地域の英語の話し方や“なまり”を理解しづらいのは当然なので、相手の英語に慣れ、文化を知ることが必要です。たとえばインド人と英語で仕事をするときには、あらかじめインド発の英語ニュースを聴いてインド特有の英語のアクセントに耳を慣らし、インド事情を知っておくのは効果的です。聴き慣れない英語に困ったら、「あなたの英語に慣れていないので、少しゆっくり話してもらえますか」と率直に伝えるのもひとつの方法です。英語を使い慣れている人の多くが、そう伝えればよりわかりやすく話そうと工夫してくれるものです。

一方で、私たち自身も注意が必要です。過度に日本語に引きずられた発音の英語では、相手が聴き取りにくいので、伝わりやすい発音を目指して、英語らしいリズムや発音を意識して練習するといいいでしょう。

自分に合った英語で伝える力を育てよう

今は英語を学ぶ手段が無限にある時代です。だからこそ、英語ができるようになるかどうかは、モチベーションをいかに維持できるかにかかっています。まずは1日15分でもいいので毎日継続できるよう、楽しめる英語の学び方を探してみてください。

リスニングなどでは、自分の仕事や趣味に関連した内容の英語を練習素材に選ぶと、学びが楽しくなります。あるいは、自分が得意なスキルに集中して英語を学び、やがて、ほかのスキルの学習に広げるのもおすすめです。私は大学の授業では、英語動画を英語のインプットによく使いますが、動画は音と映像があって情報が豊かなので理解しやすく、しかも速度調整や字幕表示もできるので、手軽なリスニング練習におすすめです。

伝わりやすい発音を身につけるには、「聴き音読」が始めやすいでしょう。英語のテキストを音声聴きながら声に出して読み、そっくり真似できるまで繰り返すので、発音はもちろん、リスニング力も同時に鍛えることができます。このとき、短くて自

分が気に入った英語を選ぶのが秘訣で、特におすすめなのは英語の「名言」や「スピーチ」です。内容が豊かな上に、声には感情や自信がこもっているので、ビジネス英語に必要な説得力のある話し方を養うこともできます。

一方で、英語力は人によって多様で、なかなか客観的に評価するのが難しいものです。そのため、TOEIC Programなどの英語試験を通じて実力を可視化し、第三者にも伝わる基準として活用することも有効です。特に、就職・転職、昇進や海外に係る仕事への挑戦、あるいは留学などの社会生活の節目で、自分の英語力を証明するのに役立ちます。

最後に非常に重要なのが、生成AIの登場によって英語の学び方と使い方もどんどん変わっていることを意識し、効果的に使いこなしながら英語と付き合うことです。生成AIは様々な用途に使えますが、英語を外国語として学ぶ人には画期的な支援ツールになります。莫大な英語情報を学習しているので、より良い語彙や表現を探し、間違いを修正するには瞬時に威力を発揮します。さらに、適切な情報を提供すれば、書き手の意図を汲み、読み手に伝わりやすい英語メールに推敲することも得意です。また、英文の要約や翻訳が瞬時にできるので、より多くの英語資料を読み、ビジネスに活かすことができます。つまり、ノンネイティブとして、ビジネスで英語を使う際の弱点を乗り越えるための相棒のような存在です。英語で作業をする時間を短縮し、より質の高い英語のアウトプットを可能にするからです。ただし、生成AIのアウトプットは間違いもあり、その質をチェックできる英語力も必要です。生成AIに依存しすぎて英語に触れなくなれば、英語力は退化してしまいます。生成AIを英語を怠けるための手段とせず、自分の英語力を磨く道具にする、そんな心構えが重要です。

英語は完璧でなければならないという意識から離れて、「自分に合った英語」を育てていくというELFの発想が、英語を多様な人と使う、これからの時代にますます重要になるでしょう。ぜひ、自分の仕事や生活の目的に合わせて英語を使う経験を積み、自分に必要な英語力を養って、世界中の人々とコミュニケーションをしてください。

“reskill” [ˌriːˈskɪl]

意味

新しいスキルを
身につける／身につけさせる

近年、日本でも“reskilling(リスキリング)”という表現を耳にする機会が増えました。「技能を教え込む」という意味の“skill”の頭に“re”を加えた“reskill”は、20世紀初頭の世界恐慌の頃に初めて新聞に登場したそうです。職を失った人たちが新しいスキルを身につける必要性が生じた時代でした。広く使われるようになったのは1990年代以降。情勢やテクノロジーの台頭により社会構造が大きく変化するタイミングで注目を集めた表現といえます。

“reskill”は、動詞(自・他)として使うことができます。ポイントは、“re”が「再び」よりも「新しく」という意味合いを強くおびている点。過去に勉強したり、習得したりした技能を再び学び直すという文脈でなく、あくまで「(新規の業務を扱うために)新たな技能を身につける／身につけさせる」という意味で使うのが一般的です。たとえば、“I want to reskill so I can transition into a new career.(新たなキャリアを積めるよう、スキルを身につけたいです)”といった表現ができます。

“reskill”に似た単語で“upskill”という動詞(自・他)もあります。「スキルを向上する／させる」という意味で、“improve”に近い表現です。日本語では「スキルアップ」と表現することが多いですが、これは和製英語。“upskill”を自然に使いこなせるようになると、一目置かれるかもしれません。



Illustration: 本田佳世



NOBU(山田暢彦)さん

アメリカ育ちのバイリンガル英語プロ講師。
現在NY在住。幅広い受講者に実践的な英語
を指導している。TOEIC L&Rスコア990点。

“reskill”の例文を
ウェブでチェック!



TOEIC® Program Q & A

Q TOEIC Programは社会人向けのテストでしょうか?

A 立場や年齢の制限なく、どなたでも受験が可能です。

TOEIC ProgramにはTOEIC Testsと英語初中級者向けのTOEIC Bridge® Testsがあり、共に「聞く・読む・話す・書く」の4技能を測ることができるテストです。TOEIC Testsは、日常生活やグローバルビジネスでの場面を想定した幅広い出題内容、TOEIC Bridge Testsは日常生活の場面を想定した出題内容になっており、いずれも社会人だけでなく、学生の方にも多くご利用いただいています。

TOEIC L&R公開テストの2024年度の受験者の割合は、学生56%、社会人42%と学生の受験者が半数を超えています。スコアは、社会人のキャリアアップ

に有効なだけでなく、学生の進学や単位認定、就職にも活用できます。新卒採用時にTOEIC Programスコアを要件・参考になっている、もしくは新たに要件・参考とする可能性がある企業は73.6%。大学や大学院の入試でも英語試験免除や合否判定などの基準として活用されるので、学生の方にもおすすめの資格です。



TOEIC Programの活用例

キャリアアップに!

- 昇進・昇格
- 海外出張・海外赴任
- 報奨金・資格手当

就職やキャリアチェンジを有利に!

- 就職・転職活動
- 公務員試験(国家・地方・警察官)
- 教員採用試験

進学・単位認定に使える!

- 大学・大学院入試
- 単位認定
- 留学・サマーセッション

活用の詳細はこちら



[INFORMATION]

●団体部門の基準が緩和

「第17回IIBC高校生英語エッセイコンテスト」参加者募集中!

「つながる心、広がる世界～コミュニケーションを通じた響きあい～」をテーマに、2025年7月1日～9月16日の期間で作品を募集します。個人部門と団体部門があり、より多くの皆様に応募いただけるよう、今回、団体部門の作品規定を500語以上から400語以上に変更しました。生徒1名につき1作品とし、学校単位でご応募ください。

第16回(2024年度)表彰式の様子



コンテストの
詳細はこちら



賞品

●最優秀賞・優秀賞・優良賞の受賞者
PCまたはタブレットを贈呈

●個人部門の全受賞者

表彰状・トロフィー(またはメダル)のほか、英語学習プログラム参加およびTOEIC Listening & Reading公開テスト受験(1回)を贈呈

参加特典

●両部門の全応募作品

英文ライティングのネイティブ講師からのフィードバックを付けて返却

●コミュニケーション力を重視した審査

「第3回IIBC大学生英語スピーチコンテスト」結果発表

8名が予選を通過し、コンテスト本選にて受賞者が決定しました。本コンテストは、大学生に英語で発信する場を提供することでグローバル人材育成に貢献したいとの思いから、2023年にスタートしました。本選では1人あたり最大8分間の英語スピーチとともに、英語による質疑応答を8分間設けることで、英語でのコミュニケーション力をさらに重視した審査をしています。

本選出場の皆さん



スピーチ
動画はこちら



●時間と場所を選ばない「公式」学習ツールがアップデート

『TOEIC®公式教材アプリ』に最新の教材が追加



スキマ時間の活用や学習の効率化に最適!「公式」ならではの人気教材が、便利なアプリコンテンツになって好評発売中。

NEW!

人気のTOEIC公式問題集が内容をそのままにアプリで学べる
「公式問題集シリーズ」



累計250万部を突破した「TOEIC公式問題集シリーズ」の最新刊がアプリにも登場! 1冊につきテスト2回分(計400問)と充実の内容なので、たくさん問題を解いて、しっかりと受験準備したい方に最適です。<購入者限定特典付き>

NEW!

ミニ教材で気軽にチャレンジできる

「TOEIC 公式教材アプリ限定サクッとシリーズ」



「基礎・標準・発展」のレベルごとに約15問を精選。レベルに合わせて気軽にチャレンジできるアプリ限定コンテンツです。問題の難易度に応じた+aの解説付きで効率的な英語学習が可能に! Part 1、4、6、7が加わり、すべてのパートが揃いました。

アプリダウンロードとログインで、最新の公式教材を含むすべての音声を無料視聴可能!まずは、無料ダウンロード!

Google
Play



App Store



あなたが世界をつなぐ
あなたと世界をつなぐ

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

IIBC公式サイト <https://www.iibc-global.org>
外部からの寄稿や発言は、必ずしも当協会の見解を表明するものではありません。

本誌は公式サイトでもご覧いただけます。

https://www.iibc-global.org/iibc/activity/iibc_newsletter.html

IIBC NEWSLETTER

検索



【お問い合わせ】
広報課 pr@iibc-global.org